

(仮称) 新盛岡バスセンター整備事業基本方針 (案)

～資料編～

平成30年7月

盛岡市

目 次

| | | |
|-----|-----------------------------|----|
| 第1章 | (仮称)新盛岡バスセンター整備事業の背景 | |
| 1-1 | 旧盛岡バスセンターの概要 | 1 |
| 1-2 | 旧盛岡バスセンターが果たしてきた役割 | 2 |
| 1 | バスターミナル機能 | 2 |
| 2 | にぎわい機能 | 2 |
| 1-3 | バスセンターを再整備する方針とした経緯 | 3 |
| 1-4 | 関連計画 | 4 |
| 1 | 盛岡市総合計画 | 4 |
| 2 | みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン | 4 |
| 3 | 中心市街地活性化つながるまちづくりプラン | 4 |
| 4 | もりおか交通戦略 | 4 |
| 第2章 | 事業をとりまく環境と地区特性 | |
| 2-1 | バス交通 | 5 |
| 1 | バス利用状況 | 5 |
| 2 | バス交通の課題 | 6 |
| 2-2 | 中心市街地 | 7 |
| 1 | 中心市街地における課題 | 7 |
| 2-3 | (仮称)新盛岡バスセンター周辺地区 | 8 |
| 1 | 人口等の指標 | 8 |
| 2 | 歴史・自然環境 | 12 |
| 3 | 土地利用状況 | 13 |
| 4 | (仮称)新盛岡バスセンター周辺地区における課題 | 15 |
| 第3章 | 中心市街地活性化及び河南地区のにぎわい創出の方向性 | |
| 3-1 | (仮称)新盛岡バスセンターの役割(基本方針(案)より) | 16 |
| 3-2 | 中心市街地の活性化 | 17 |
| 3-3 | 河南地区のにぎわい創出 | 18 |
| 1 | 河南地区が目指す方向性 | 18 |
| 2 | 充実が求められる機能 | 18 |
| 3 | 持続的になぎわいの創出 | 19 |
| 参考 | (仮称)新盛岡バスセンター整備に対する市民意見 | 20 |

第1章 (仮称) 新盛岡バスセンター整備事業の背景

1-1 旧盛岡バスセンターの概要

昭和35年に開業した旧盛岡バスセンターは、盛岡駅の東側約2kmに位置し、盛岡市中心部における民営のバスターミナルとして、バス交通及び河南地区のにぎわいに貢献するとともに多くの市民に利用されてきました。

運営会社である(株)盛岡バスセンターによる建替え計画も検討されていましたが、平成28年3月に廃止の方針が示され、同年9月に営業を終了しました。

図1 位置図



この地図は、岩手県の承認を得て岩手県所有の盛岡広域都市計画図(1/2500, 1/10000)を複製したものである。
(承認番号)平成29年8月21日岩手県指令都第8-5号

表1 旧盛岡バスセンターの概要

| | | |
|---------------------|---|---|
| 事業者名 | (株)盛岡バスセンター | |
| 開業 | 昭和35年 | |
| 閉鎖 | 平成28年9月30日 | |
| 資本金 | 65,000千円(内 盛岡市出資金額3,250千円, 出資比率5%) | |
| 建物概要 (平成27年頃の状況) | 1階 | バス乗り場, 窓口(普通乗車券, 高速バス乗車券, バスカード, 定期券), 乗車券自動券売機, 待合室, テナント(飲食関係, その他) |
| | 2階 | 閉鎖(以前はテナントあり) |
| | 3階 | 岩手県バス協会 |
| | バスターミナル | 7バース, 26路線(発車228便, 到着199便, 平日1日あたり) |
| 駐車場 | バス等の駐車場(市道をはさんだ東側) | |
| 運行本数 | 1,584本/日(平日)(周辺バス停を含む) 内バスセンター分:427本/日 | |
| 乗降者数 | 約6,300人/日(周辺バス停を含む) 内バスセンター分:約1,700人/日 | |

| のりば | 行先 |
|-----|---|
| 1 | 大更・平賀・八幡平・滝沢・盛岡大学・盛岡大学 遠回り 青山駅・みちがけ・湯沢水・田川駅・イオン(本店)・盛岡南営業所 久慈 |
| 2 | 仙台 雫石 繁温泉・鷹宿温泉 湯本温泉 |
| 3 | 大船渡・釜石・千厩 小岩井農場まきば園・網張温泉 日詰駅(長岡経由) |
| 4 | 東京駅 八戸 日詰駅(日赤経由・見前回り) 盛岡バスセンター(本宮回り太田経由) |
| 5 | 松園営業所・桜台団地・松園バスターミナル(北山経由) 好摩駅・玉山中学校入口 横浜 |
| 6 | 花巻空港 |
| 7 | 降車専用 |
| 11 | 盛岡駅 東山大学・滝沢・精清水方面 滝沢駅前 若手校前・菓子車庫 太田回り本宮経由 赤人記念館 幸仁病院 イオン(本店) でんでんむし(右回り) よほうういがく協会 |
| 12 | 松園営業所(上田線)・松園バスターミナル・滝沢市役所(中央病院経由) |
| 13 | つつじが丘団地・中央工業団地 豊前営業所・手代町(1・2)部 盛岡ルーフ 盛岡バスターミナル・赤市営業所・バスターム パーデン上・宮古 山田駅前(106急行) 川田・盛岡市立病院 盛岡市立病院・でんでんむし(左回り) 赤山(盛岡南) 松園営業所(北山線) |
| 14 | 神明町 松園営業所(松園若園線) でんでんむし(左回り) つつじが丘団地 |
| 15 | 飛鳥M前 でんでんむし(右回り) 盛岡駅(松園若園線・新庄線) |
| 16 | 飛鳥M前 松園営業所(上田線)・松園バスターミナル |
| 17 | 日専連向 盛岡駅(106急行)・滝沢駅前 |

1-2 旧盛岡バスセンターが果たしてきた役割

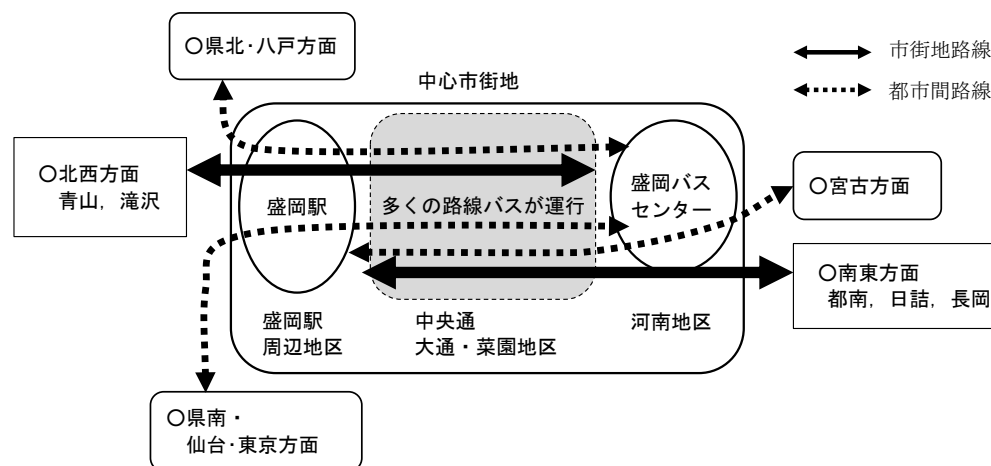
1 バスターミナル機能

(1) 中心市街地におけるバス交通の充実

盛岡市の中心市街地は、東西両端にバスターミナルが配置されていることで、各方面からの路線バスが中央通などの中心部を経由する形で運行されており、各方面からアクセスしやすくなっています。

旧盛岡バスセンターは、中心市街地のバス交通の充実に重要な役割を果たしてきました。

図2 中心市街地のバス交通概念図



(2) 河南地区へのアクセス性

肴町商店街を中心に商業機能が集積している河南地区は、旧盛岡バスセンターによって盛岡市内外から訪れやすくなっており、旧盛岡バスセンターは、河南地区の集客力の向上に貢献してきたと考えられます。

2 にぎわい機能

開業当時の旧盛岡バスセンターは、待合所や券売窓口等のバス利用に関する機能だけでなく、売店、飲食店、理容室及び子供遊園場なども整備され、多くの人で賑わっていました。その後に増築された旧盛岡バスセンターは、時代の変遷とともに事務所機能や音楽教室などが入居し、河南地区のにぎわい創出にテナントビルとしてもその役割も果たしてきました。



旧盛岡バスセンター

1-3 バスセンターを再整備する方針とした経緯

盛岡市中心市街地のバス交通は、盛岡駅と河南地区の2箇所のバスターミナルに支えられており、今後も旧盛岡バスセンターの位置にバスターミナル機能を存続させる必要があります。

また、市民や商業関係者等からもバスセンター機能継続の要望が市や市議会に提出されており、このような再整備を求める市民意見も踏まえ、第三者に売却される可能性があった旧盛岡バスセンター敷地を盛岡市が先行取得し、民間活力の導入を図りながら新たなバスセンターを整備する方針としたものです。

<経緯>

- 平成28年3月 盛岡バスセンターを廃止し、建物を取壊したうえで土地を売却する方針が(株)盛岡バスセンターから示される(同月、市議会全員協議会に報告)
- 平成28年3月 関係団体からの盛岡市への要望
盛岡商工会議所 バスターミナル機能の維持・存続ほか
盛岡市肴町商店街振興組合 バスターミナル機能の継続
- 平成28年5月 市の対応方針を市議会全員協議会に説明
ターミナル機能を現在地で確保するため盛岡市が土地を取得する方針
関係機関と検討し当面のバス運行を確保する(市が仮設待合室等を整備)
- 平成28年6月 盛岡バスセンター機能継続を求める会から市議会への請願
盛岡バスセンターの機能継続の請願 →市議会の採択
(趣旨賛同団体：地元商店街及び町内会等の23団体)
- 平成28年6月 盛岡バスセンターから考える会から盛岡市への要望
建物を含めた取得を求める要望
- 平成28年9月 盛岡バスセンターの営業終了
- 平成28年10月 仮設乗降施設の運用開始
- 平成28年11月 用地取得及び再整備事業の方向性等を市議会全員協議会に説明
市が土地を取得する意向を(株)盛岡バスセンターに申入れ協議中
再整備事業の方向性として公民連携事業手法を基本に検討する
◇公共性の高いバスターミナル機能は、盛岡市とバス事業者が協力し維持を図り、バス乗降施設は盛岡市の費用負担も検討
◇民間による収益事業が中心となるにぎわい機能は、民間のビジネスとして持続可能な施設として整備
- 平成29年2月 盛岡バスセンターの解体完了(株)盛岡バスセンターによる解体)
- 平成29年3月 土地開発基金により用地を先行取得
- 平成29年度 (仮称)新盛岡バスセンター整備事業における公民連携事業導入可能性調査を実施

1-4 関連計画

1 盛岡市総合計画

- (1) 策定 平成27年3月
- (2) 計画期間 平成27年度から36年度
- (3) 概要

基本目標の一つに「人が集い活力を生むまちづくり」を掲げ、施策として「都市基盤整備の維持・強化」や「交通環境の構築」を推進する計画としています。

2 みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン

- (1) 策定 平成28年3月
- (2) 計画期間 平成28年度から32年度
- (3) 概要

基本方針を「圏域における新たな産業、事業、商品、サービスの創造や知見の共有による、産業や生活関連機能サービスの質の向上等を図るために、圏域が有する豊富な地域資源の間に市町の境を越えた新たなつながりを生み出します。」として、3つの戦略「産業の営みをつなぐ（圏域全体の経済成長のけん引）」、「人の流れをつなぐ（高次の都市機能の集積・強化）」及び「暮らしの安心をつなぐ（圏域全体の生活関連機能サービスの向上）」に取り組む計画としています。

3 中心市街地活性化つながるまちづくりプラン（盛岡市中心市街地活性化基本計画）

- (1) 策定 平成30年3月
- (2) 計画期間 平成30年度から34年度
- (3) 概要

基本方針を「商店街のにぎわいや魅力を楽しむ中心市街地の形成」、「暮らしの便利さを感じる中心市街地の形成」及び「盛岡の歴史や文化に触れる中心市街地の形成」として、（仮称）新盛岡バスセンター整備事業による施設整備を主要事業に位置づけ、各種事業に取り組む計画としています。

4 もりおか交通戦略

- (1) 策定 平成21年10月
- (2) 計画期間 平成21年度から30年度
- (3) 概要

基本方針を「歩いて楽しむ中心市街地形成」及び「公共交通軸の充実・強化」として、中心市街地の拠点である「盛岡駅前地区」、「大通・菜園地区」及び「中ノ橋地区」を歩行者や自転車で快適に移動できにぎわいある空間を創出するとともに、バス等の公共交通によるアクセス性の向上を図る計画としています。

第2章 事業をとりまく環境と地区特性

2-1 バス交通

1 バス利用状況

平成12年以降はバス輸送人員の減少傾向に歯止めがかかり、近年は横ばいから微増で推移しています。バス利用者の主な属性は若年層や高齢者層など自家用車を運転しない世代が中心と考えられ、市ではバス事業者等と共同で高齢者が中心部に出かける際に便利な“まちなか・おでかけバス”事業などの利用促進策に取り組んでいます。

また、市内には中心市街地の移動に便利な「都心循環バスでんでんむし」が運行されており、年間130万人を超える利用があります。

図3 盛岡市バス利用者数の推移（盛岡市統計書）

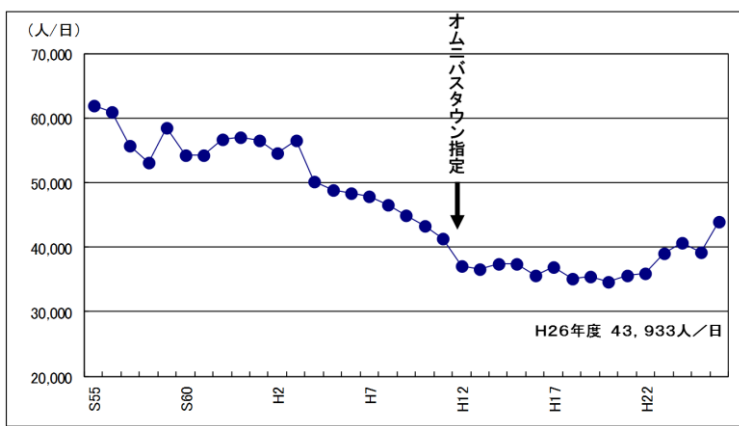


図4 まちなか・おでかけバス チラシ

盛岡市にお住まいで、満70歳以上の方対象 市営バス交通・市営バス・市営バス(普通バス)

まちなか・おでかけバスを利用して
中心市街地へ
出かけよう!

「おでかけバス」に記入する
ご自身のバス停はご自宅の最寄り
に記入ください。
遠方のバス停は記入できません。

乗車料 **5,400円**

利用期間 **12/1～5/31**

申し込み期間 **11/13～4/27**

申し込み窓口
〒020-0802 盛岡市本町1-1-1 盛岡市役所 市民生活課 市民生活課 市民生活課

図5 都心循環バスでんでんむしルート



2 バス交通の課題

今後、人口減少が進行する状況にありますが、バス利用者の主な属性と考えられる高齢者と若年層を合わせた人口は当面減少しないと予測されています。バスは、今後も市街地における重要な移動手段として、サービス水準を確保することが求められます。

図6 夜間人口の推移及び将来推計 資料：盛岡市人口ビジョン

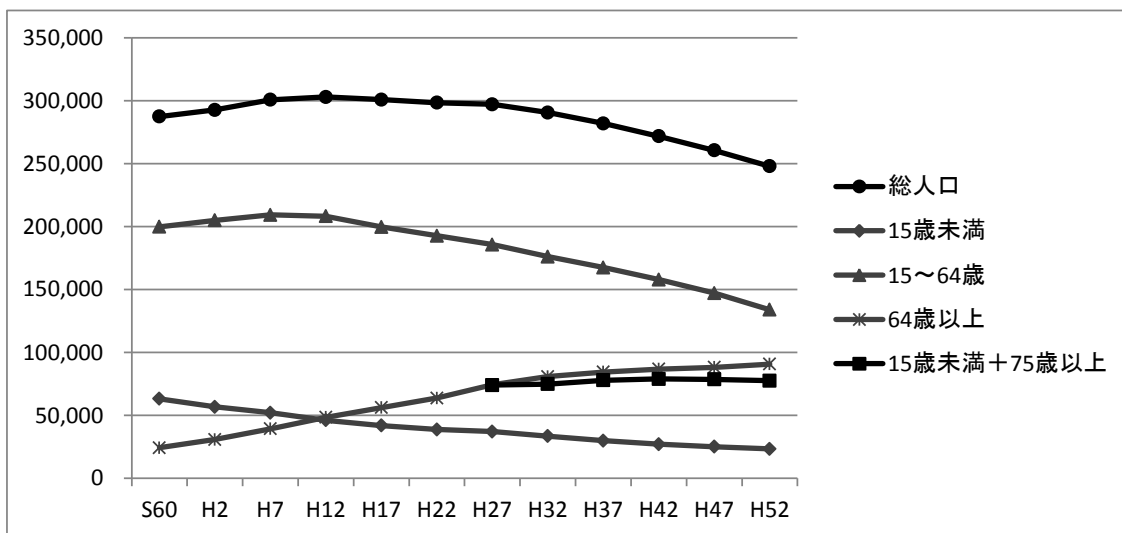


表2 盛岡市夜間人口推計 資料：盛岡市人口ビジョン

| | H27 | H32 | H37 | H42 | H47 | H52 |
|-----------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口 | 297,047 | 290,455 | 281,820 | 271,739 | 260,458 | 247,898 |
| 15歳未満 | 37,182 | 33,532 | 29,944 | 27,113 | 25,120 | 23,339 |
| 15～64歳 | 185,613 | 176,092 | 167,437 | 157,827 | 147,173 | 133,874 |
| 64歳以上 | 74,252 | 80,831 | 84,439 | 86,799 | 88,165 | 90,685 |
| (再掲)75歳以上 | 36,900 | 41,316 | 47,928 | 51,774 | 53,447 | 54,144 |
| (再掲)15歳未満+75歳以上 | 74,082 | 74,848 | 77,872 | 78,887 | 78,567 | 77,483 |

2-2 中心市街地

1 中心市街地における課題

平成30年3月に策定した「中心市街地活性化つながるまちづくりプラン（盛岡市中心市街地活性化基本計画）」では、中心市街地の課題として、既存ストックの有効活用や施設の更新による都市機能の確保、広域圏からの吸引力が強い盛岡駅西口地区等から中心市街地への回遊性を高めること、バスターミナル機能の強化など公共交通機関の利便性向上等が課題として挙げられています。

中心市街地活性化つながるまちづくりプラン（平成30年3月策定）より

中心市街地における課題

■エリアの特徴や中心市街地をとりまく環境からの分析

中心市街地のそれぞれのエリアには、歴史的・文化的な施設のほか、これまでの経済活動により整備された施設等の資産が配置されていることが分かります。同時に、これら既存ストックの有効活用が課題として見えてきます。

中でも、内丸地区では施設の老朽化が進行しており、施設の更新とともに、従来の都市機能を確保していくことが課題となっています。

盛岡駅西口地区、盛岡南地区については、公共施設、集客施設の建設が進み、居住人口も増加傾向にあり、また、広域圏からの吸引力が強いことから、この地区から中心市街地への回遊をいかに高めるかが課題となります。

■人口の現状からの分析

市内全体の人口は減少が続いていますが、中心市街地ではマンションの新築などにより人口は増加しています。しかし、少子高齢化の進行により、今後は中心市街地においても人口が減少に転じる可能性があり、その場合、医療・福祉・文教施設や公共公益機能の維持、商業・サービス業への影響が懸念されることから、「まちの顔」としての中心市街地の魅力を維持していくための人口対策が課題となります。

■経済活動からの分析

郊外型大規模小売店舗の進出により市全体の小売店舗の売場面積は増加していますが、中心市街地の小売店舗数は年々減少傾向にあり、年間小売販売額のシェアも減少していることから、中心市街地の吸引力が低下していることが懸念されています。

■市民意識からの分析

市民意識調査では、中心市街地のあるべき姿として「歩いて楽しい街」を望む声が多くなりました。一方で、「交通が便利な街」を望む意見や「バスターミナル機能の強化など公共交通機関の利便性向上」「電線類地中化や歩道の融雪装置設置及び車道の整備」を今後の姿として望む声が多く聞かれたほか、中心市街地を「一方通行や狭い道路が多い」「駐車場が少ない」と捉える市民も多く、交通対策や道路整備に関心が集まっています。

また、中心市街地に今後必要なものとして、「商店街や地域の核となる商業施設」との回答が多く、魅力的な商店や、家族で楽しめる施設を望む声も多く聞かれました。買い物の楽しみなどを実感できる商業機能や魅力ある商店街の形成とともに、中心市街地を目的地とする集客の強化が課題となります。

2-3 (仮称)新盛岡バスセンター周辺地区

1 人口等の指標

(1) 夜間人口

(仮称)新盛岡バスセンター周辺地区である河南地区※の夜間人口は近年増加傾向となっています。人口増加の要因は、マンションの供給と利便性の高い都心居住の需要によるものと推測されます。

一方、町丁別では、都心に近く交通の便が良い地区で増加の傾向が見られるのに対して、離れた地区では減少傾向となっています。

※ 中心市街地活性化基本計画の区域を基本に以下のようにゾーニングした
 河南地区：中ノ橋通一～二丁目、紺屋町、神明町、肴町、南大通一丁目、八幡町
 大通・菜園地区：内丸、中央通一～三丁目、大通一～三丁目、菜園一～二丁目、大沢川原一～三丁目、開運橋通、材木町
 駅前地区：盛岡駅前通、盛岡駅北通

図7 中心市街地の地域別人口推移（国勢調査）

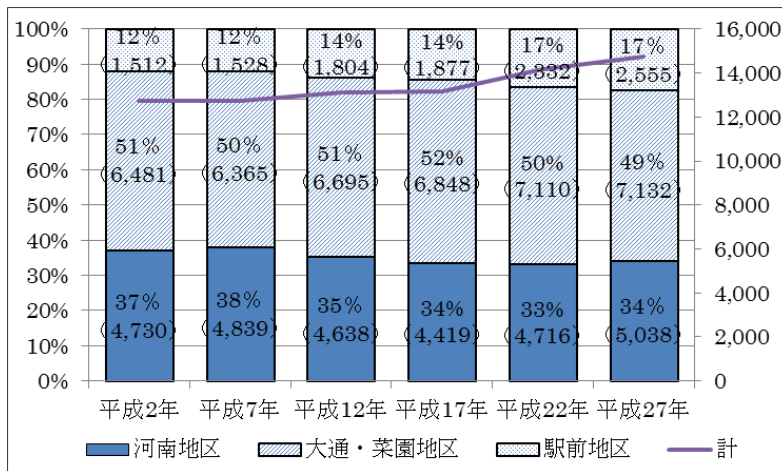
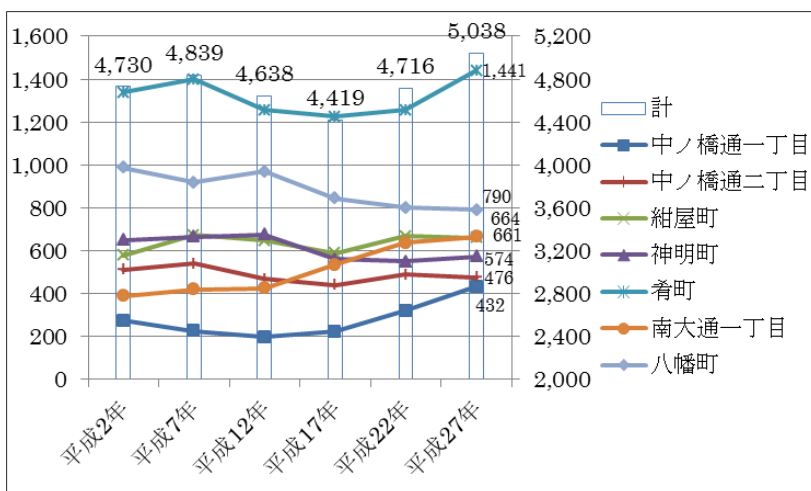


図8 河南地区の町丁別の人口推移（国勢調査）



また、年齢階層別人口は、市の平均と比較して高齢化率が高く、年少人口が少ない傾向にあります。人口が増加している中ノ橋通一丁目では、生産年齢人口が増加しています。

図9 河南地区の年齢階級別人口（住民基本台帳）

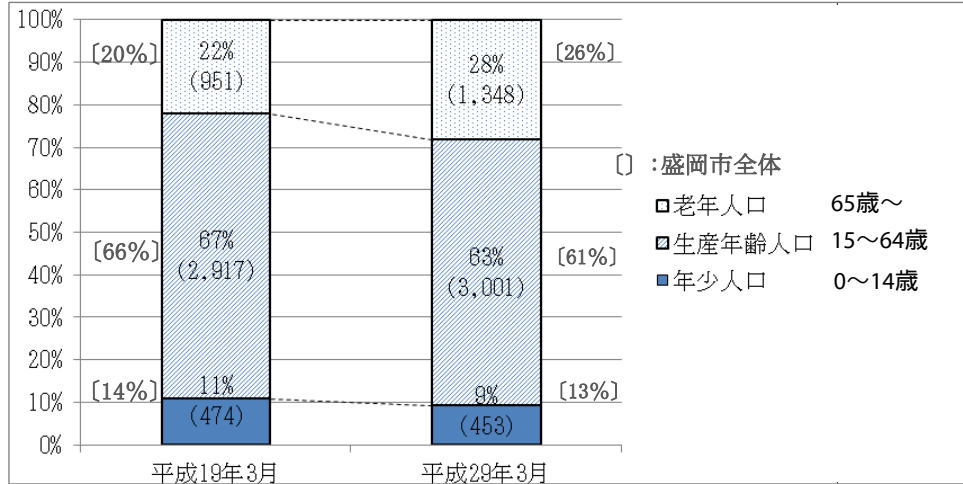
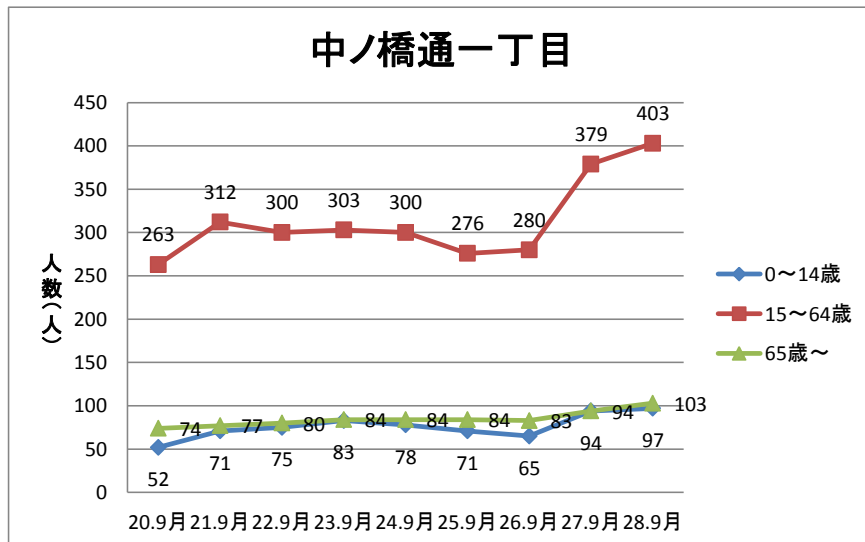


図10 中ノ橋通一丁目人口構成推移（住民基本台帳）



(2) 従業者数

河南地区の従業者数は、平成8年から平成26年までに約3割減少しています。平成18年以降は、減少傾向が緩やかになっており、東日本大震災後に一時落ち込みましたが、近年は微増傾向にあります。

近年、河南地区では、古い建物のリノベーション等により、飲食店を中心に起業する動きが見られ、従業人口増加の一因と考えられます。

図 11 中心市街地の地域別従業者数推移（経済センサス）

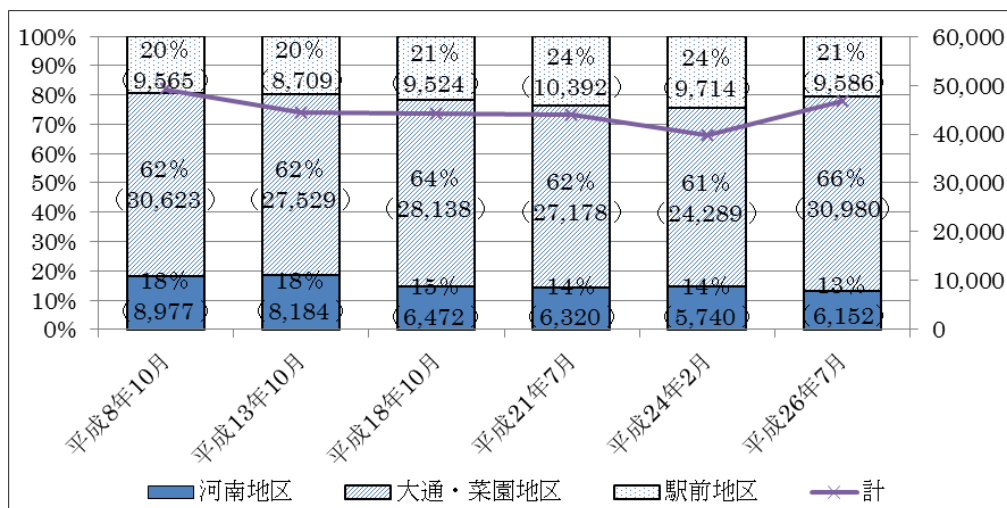
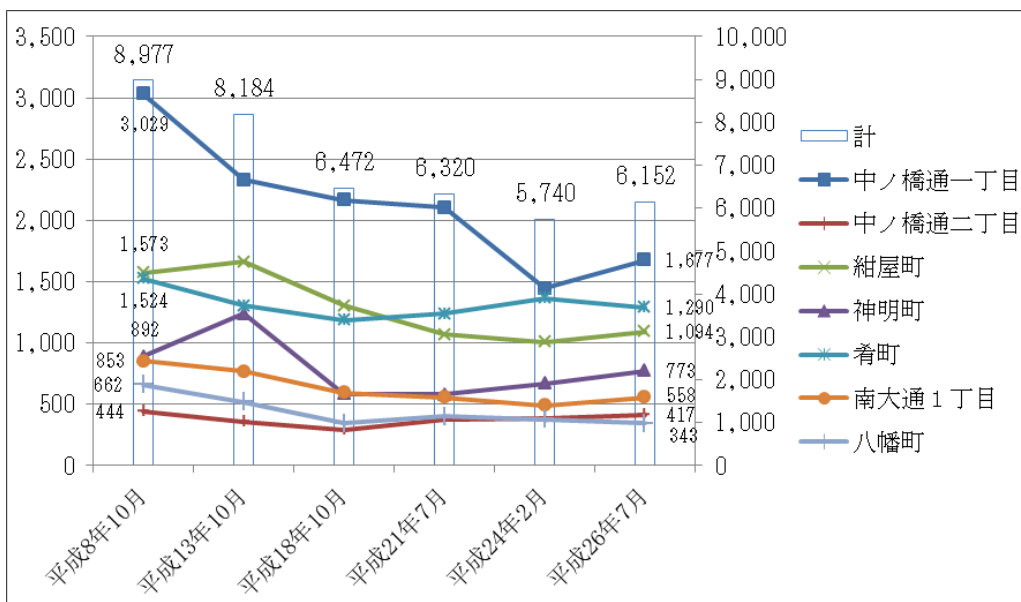


図 12 河南地区の丁町別の従業者数推移（経済センサス）



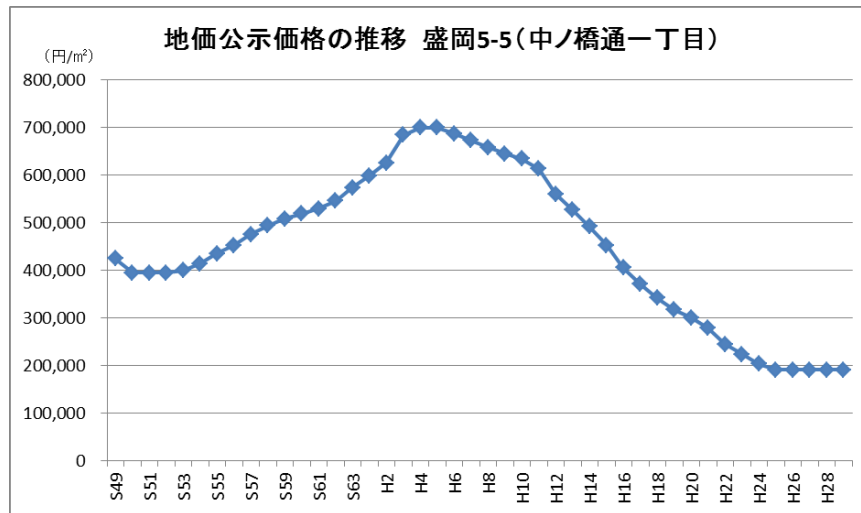
(3) その他の指標

ア 地価の状況

中ノ橋通一丁目の公示価格の推移を示します。平成5年の70万円/㎡をピークに減少に転じ、平成25年には19万1千円/㎡まで下落しています。

なお、平成25年度以降は横ばいが続いています。

図13 地価公示価格の推移 資料：国土交通省

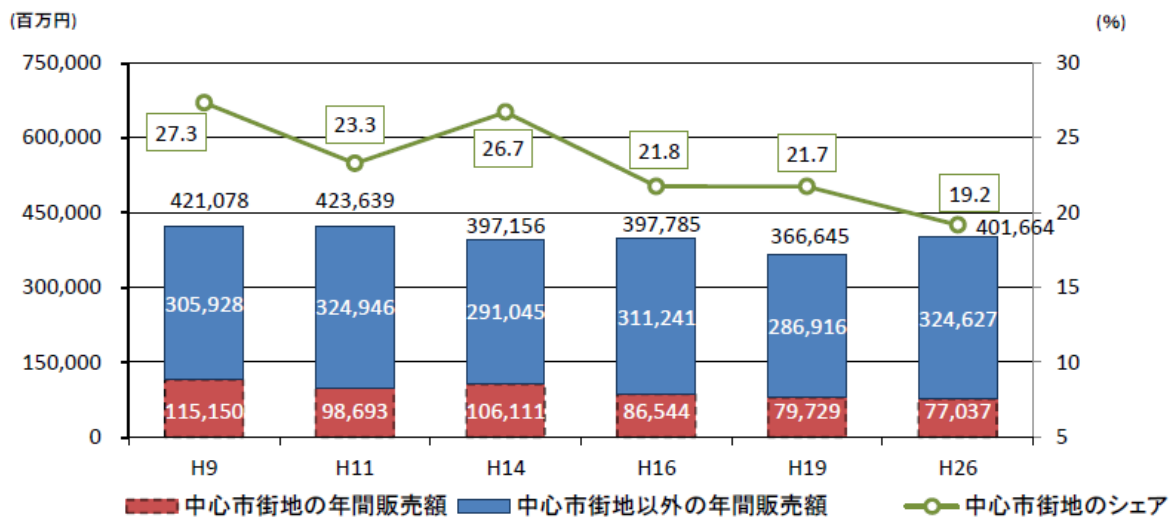


イ 小売販売額の状況

市全体，中心市街地ともに，年間小売販売額は減少傾向にあります。

市全体の年間販売額に占める中心市街地の割合は減少傾向にあります。

図14 年間小売販売額の推移 資料：中心市街地活性化つながるまちづくりプラン



資料：経済産業省「商業統計調査報告書」

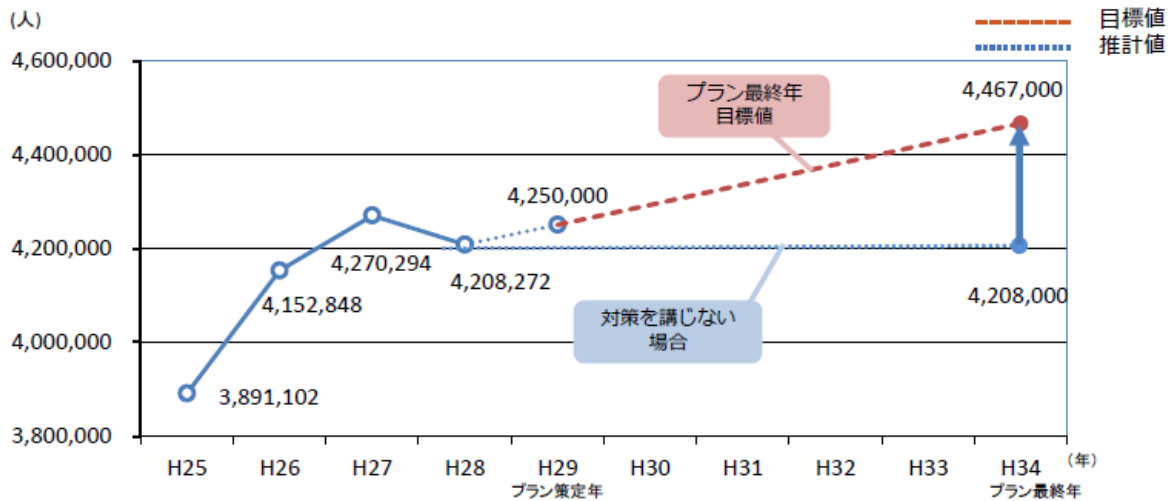
ウ 盛岡市街の観光客入込数

盛岡市街の観光客入込数は、平成26年以降420万人前後で推移しています。中心市街地活性化つながるまちづくりプランでは、平成34年までに約450万人に増加させることを目標としています。

図15 盛岡市街の観光客入込数の推移と目標値

資料 中心市街地活性化つながるまちづくりプラン

※盛岡市街（つなぎ地区、旧都南村、旧玉山村を除く範囲）



資料：盛岡市商工観光部観光交流課

2 歴史・自然環境

(1) 歴史

(仮称)新盛岡バスセンター周辺地区は、藩政時代から近代までの歴史が感じられる街並みが残っている地区であり、ござ九、岩手銀行（旧盛岡銀行）旧本店本館、盛岡信用金庫本店、旧第九十銀行、紺屋町番屋、鉾屋町の盛岡町家などの建物が現在に歴史を伝えています。

また、明治橋付近の大慈寺町、鉾屋町界限は、明治から大正にかけての盛岡町家等が残る地区として景観地区に指定されています。

これらの歴史的街並みは盛岡市の観光資源であり、周辺には観光客が訪れています。

(2) 自然

(仮称)新盛岡バスセンター周辺地区の西側を流れる中津川は、都市部を流れる貴重な清流であり、秋にはサケが遡上し河川敷は多くの市民に利用されるなど、まちと川の自然が調和しています。

3 土地利用状況

(1) 土地利用の概況

- ・(仮称)新盛岡バスセンター整備予定地の西側は、肴町商店街を中心に商業施設が集積しています。
- ・肴町商店街の西側の旧奥州街道沿いには、岩手銀行(旧盛岡銀行)旧本店本館等の歴史的建造物が多く立地しているほか、銀行や盛岡市観光文化交流センター「プラザおでつて」等の業務施設及び公共施設等が立地しています。
- ・肴町商店街から盛岡八幡宮に至る沿道には、店舗併用住宅や商業施設が混在しています。
- ・(仮称)新盛岡バスセンター整備予定地の周辺には、マンション等の共同住宅が多く立地しています。
- ・(仮称)新盛岡バスセンター整備予定地の南側に位置する鉾屋町には、盛岡市の保存建造物である「浜藤の酒蔵」などを改修した「もりおか町家物語館」があるほか、歴史的街並みが保存・活用されています。
- ・(仮称)新盛岡バスセンター整備予定地がある河南地区周辺は、市立の小中学校、県立の高等学校のほか、岩手大学の附属小中学校や学習塾も多く立地しており、文教地区としての側面も有する地域です。

(2) まちづくりの動き

(仮称)新盛岡バスセンター整備予定地の周辺では、リノベーションによる既存建物の活用など、民間主導のまちづくりの動きが見られます。

当地域では、もりおか八幡界限まちづくりの会、鉾屋町かいわい街並み協議会、盛岡市肴町商店街振興組合青年部(4S会)、盛岡劇場界限まちづくり推進会、もりおかワカモノプロジェクトなどの団体がイベント開催や既存建物の有効活用など様々なまちづくりの活動に取り組んでいます。

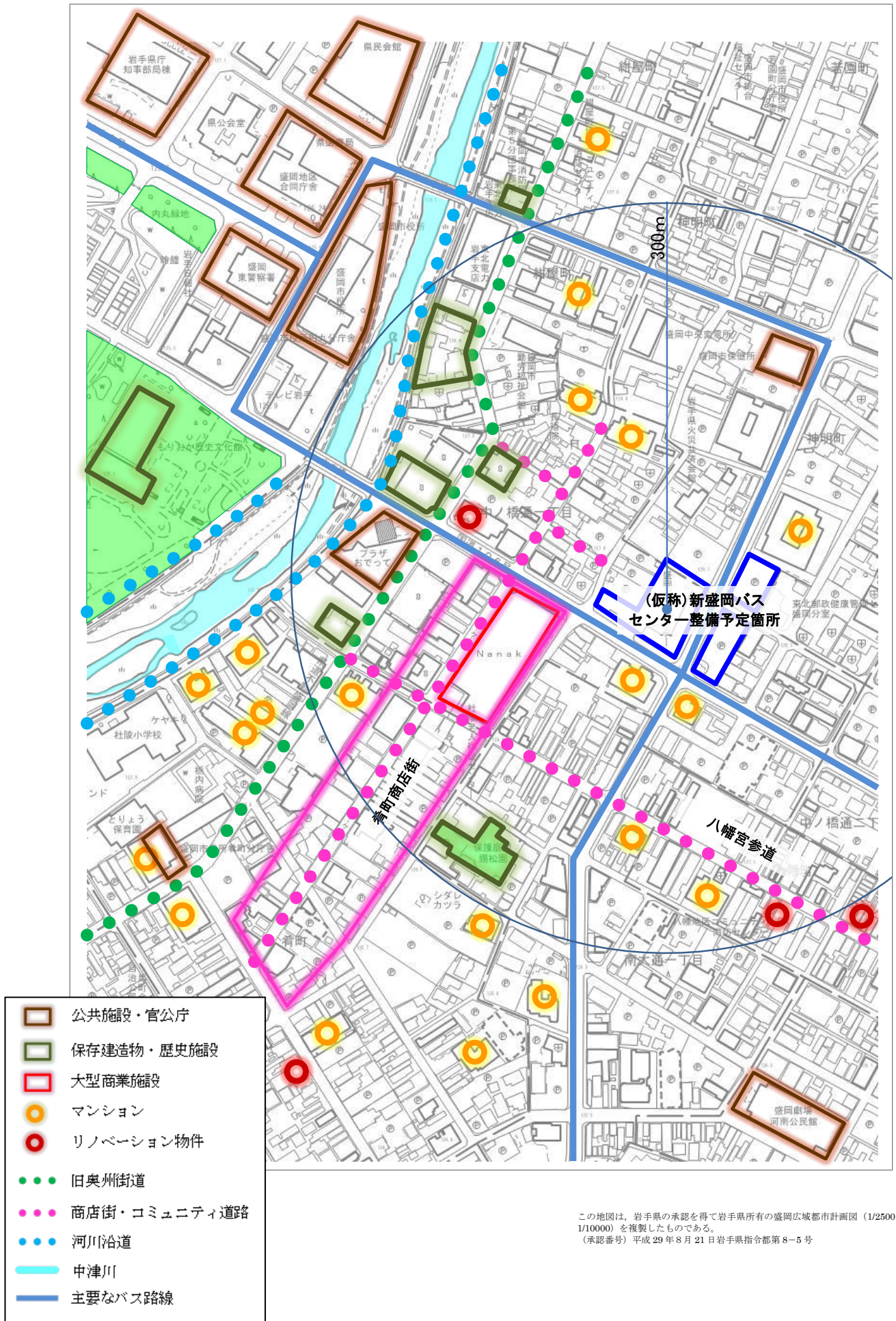
また、旧盛岡バスセンター敷地では、上記団体に加えて地域の商店街等で構成される「盛岡バスセンターおよび周辺地区活性化協議会」を設立し、SIDE-Bプロジェクトとして、再整備までの期間における敷地の有効活用を図るため、イベントなどの地域活性化事業に取り組んでいます。



S I D E - B

◇SIDE-B 運営主体：盛岡バスセンターおよび周辺地区活性化協議会
盛岡バスセンター機能継続を求める会、盛岡市肴町商店街振興組合、盛岡市肴町商店街振興組合青年部(4S会)、もりおか八幡界限まちづくりの会、鉾屋町かいわい街並み協議会、盛岡劇場界限まちづくり推進会、もりおかワカモノプロジェクト

図 16 (仮称) 新盛岡バスセンター周辺地区現況図 (概ね徒歩圏内)



この地図は、岩手県の承認を得て岩手県所有の盛岡広域都市計画図 (1/2500, 1/10000) を複製したものである。
(承認番号) 平成 29 年 8 月 21 日岩手県指令第 8-5 号

図 17 河南地区周辺図



この地図は、岩手県の承認を得て岩手県所有の盛岡広域都市計画図（1/2500、1/10000）を複製したものである。
（承認番号）平成 29 年 8 月 21 日岩手県指令都第 8-5 号

4 (仮称) 新盛岡バスセンター周辺地区における課題

(仮称) 新盛岡バスセンター周辺地区は、商業を中心に発展してきた地区ですが、郊外型大規模小売店舗の出店やインターネット販売等により、小売業を取り巻く環境は大きく変化していると考えられます。一方、河南地区の居住人口は増加傾向にあるほか、地域には様々な資源があることから、これらを活かした活性化が望まれます。

以下に、(仮称) 新盛岡バスセンター周辺地区の現状から考えられる課題を示します。

- 社会環境やライフスタイルの変化に対応した、河南地区を目的地とする集客力の強化により、地域経済の好循環を図ることが求められます。
- 従来からの居住者に加えて新しい居住者が増加する傾向にあり、高齢者及び子育て世代にとって暮らすやすい住環境が求められます。

第3章 中心市街地活性化及び河南地区のにぎわい創出の方向性

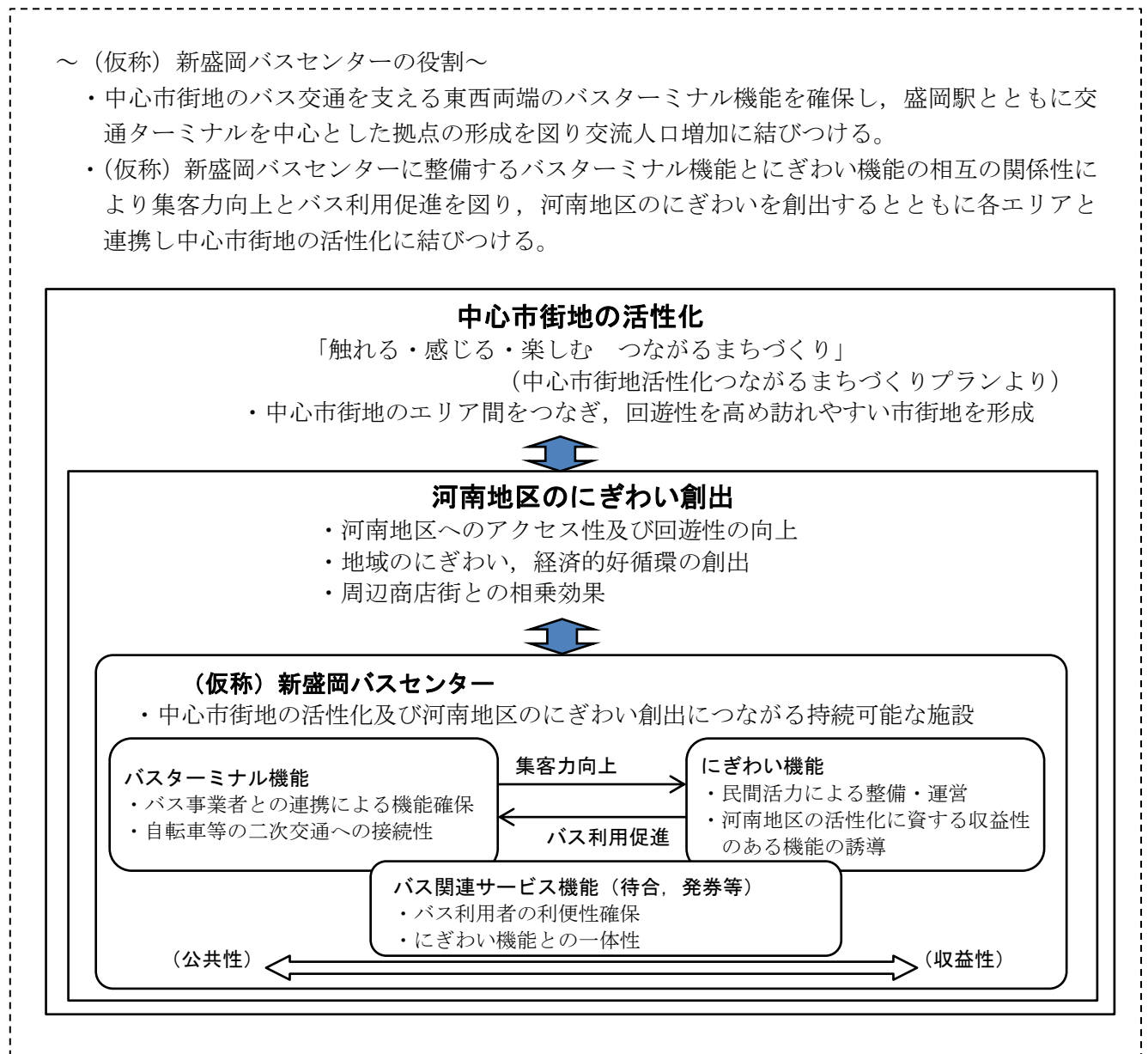
3-1 (仮称)新盛岡バスセンターの役割(基本方針(案)より)

(仮称)新盛岡バスセンター整備事業基本方針(案)では、図18に示すとおり「中心市街地の活性化」及び「河南地区のにぎわい創出」に結びつく施設として整備する方針としています。

ここで掲げている「中心市街地の活性化」及び「河南地区のにぎわい創出」の方向性について、市民意見や関連計画等に基づく検討内容を次ページ以降に示します。

図18 (仮称)新盛岡バスセンターの役割

資料：(仮称)新盛岡バスセンター整備事業の基本方針(案)



3-2 中心市街地の活性化

「中心市街地活性化つながるまちづくりプラン」において、「触れる・感じる・楽しむ」という中心市街地の活性化のために重要な要素をつなぎ相乗効果を生み出すとともに、街なかの回遊性の向上に向けて、中心市街地のエリア間をつなぐことを目標としています。

また、訪れやすい環境をつくるための取り組みとして、(仮称)新盛岡バスセンター整備事業が位置づけられており、中心市街地を支える交通ターミナルとして、盛岡駅とともにその役割が期待されています。

中心市街地活性化つながるまちづくりプラン（平成30年3月策定）より

○プランのテーマ
「触れる・感じる・楽しむ つながるまちづくり」

○プランの基本方針
「基本方針1」 商店街の賑わいや魅力を楽しむ中心市街地の形成
「基本方針2」 暮らしや便利さを感じる中心市街地の形成
「基本方針3」 盛岡の歴史や文化に触れる中心市街地の形成

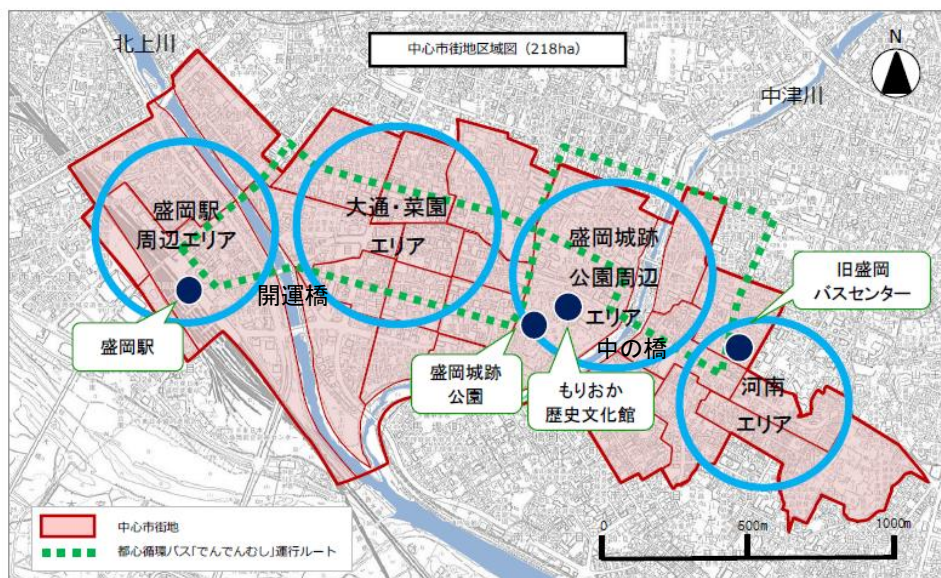
○求められる中心市街地

- 賑わいの創出
- 住みやすさの創出
- 訪れやすさの創出
- 中心市街地の魅力の発信
- 未来に向かって

今後は、リノベーションなどによる既存ストックの有効利用や道路空間や緑地などの公共空間の活用といった新たな発想により、まちを盛り上げていくことが求められます。

全国的にも民間主導や官民協働によるまちづくりの動きが見られるなか、盛岡市においても、市民や地元企業が中心市街地を盛り上げる活動やアイデアを行政が後押しできるしくみが求められます。

図19 中心市街地のエリア区域図 資料：中心市街地活性化つながるまちづくりプラン



この地図は、岩手県の承認を得て岩手県所有の盛岡広域都市計画図(1/2500, 1/10000)を複製したものである。(承認番号)平成29年8月21日岩手県指令都第8-5号

3-3 河南地区のにぎわい創出

1 河南地区が目指す方向性

河南地区は、商業業務機能、居住機能のほか観光資源も集積する盛岡の歴史、文化及び生活を感じられる代表的な地区であり、このような地域特性を活かしながら、河南地区に関わる多様な属性の人々が活躍し、河南地区の発展を実現することが望まれます。

○ 暮らす

河南地区で暮らす様々な世代や立場の人々が、盛岡の歴史や自然、まちのにぎわいを感じながら、便利で安全に安心して暮らせるまち。

○ 働く

商店街やオフィスで働く人、新たに事業を始める人、河南地区で働く様々な人々の生活やチャレンジを支えるとともに、人生を充実させるサードプレイス※も提供できるまち。

(※サードプレイス=家庭(第1の居場所)や職場(第2の居場所)以外の居心地の良い居場所)

○ 学ぶ

河南地区に立地する学校に通学する児童や生徒が、未来の河南地区や盛岡を支える人材として伸び伸びと育つまち。

○ 訪れる

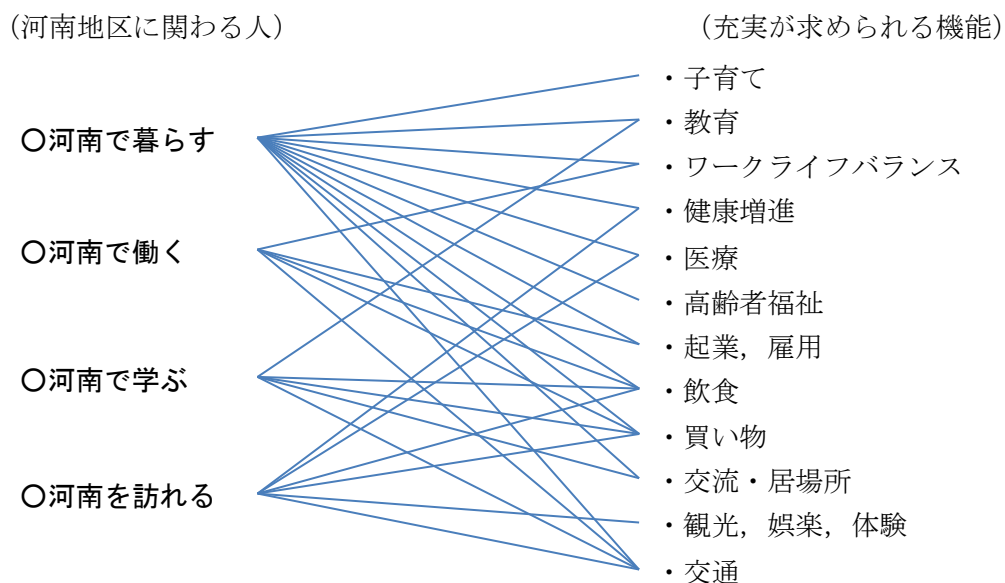
観光で訪れる人、買い物や通院等で訪れる人、ビジネスで訪れる人、河南地区を訪れる人々の様々な目的が実現でき、また訪れたいと感じてもらえるまち。

2 充実が求められる機能

これまで、市民意見等で河南地区やバスセンターに求められる機能としてあげられたものと河南地区に関わる人との関係を下図に示します。

河南地区に関わる個人の属性によって求められる機能は異なると考えられますが、これらの機能は河南地区にとって必要な機能であると言えます。

図 20 河南地区に関わる人の属性と充実が求められる機能との関係



3 持続的なにぎわいの創出

(1) 河南地区へのアクセス性及び回遊性の向上

河南地区で暮らす人々や訪れる人々にとって、アクセスしやすく回遊しやすい交通環境は、様々な活動の基本となる要素です。

持続的なにぎわい創出を図るためには、バス交通によるアクセス性を従来と同様に確保するとともに、徒歩や自転車で回遊しやすいまちづくりを進めることが重要であると考えられます。

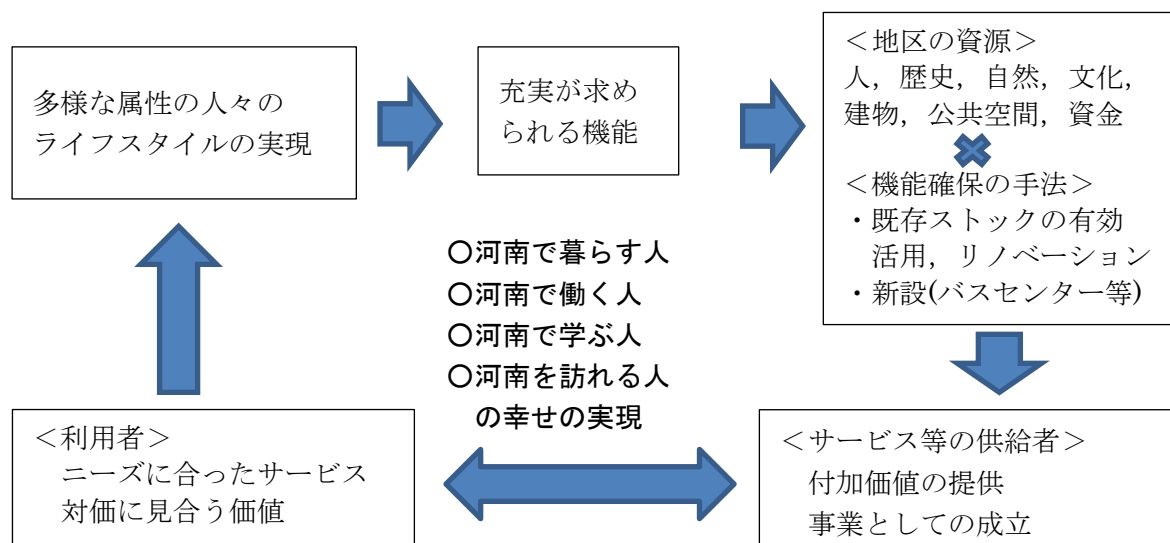
(2) にぎわいの創出と経済的好循環

河南地区のにぎわいの創出を持続的なものとするためには、充実が求められる機能を確保し提供するための取組が経済的にも成立することが求められます。

そのためには、サービスを提供する側と利用する側の双方にとって利益となる“付加価値”を生み出すことと、経済的な循環が地域内の利益に結びつくことが重要であると考えられます。

このような持続可能な経済的好循環を生み出すことによって、河南地区の集客力を高めるとともに、河南地区に関わる人々の幸せな暮らしの実現を図ることが求められます。

図21 河南地区に求められる機能の充実と経済的好循環のイメージ



(3) 周辺商店街との相乗効果

肴町等の商店街を中心に発展を遂げてきた河南地区ですが、前述のとおり、小売業を取り巻く環境は大きく変化しています。

今後、社会環境やライフスタイルの変化に対応し、持続的なにぎわいの創出を図るためには、従来の商業機能に加えて新たな集客機能を導入し来訪者の増加を図るとともに、高齢者のみならず子育て世代にも配慮した住環境の充実により居住者の増加を図ることが重要であると考えられます。

このような、新たな来訪者や居住者を呼び込む取り組みは、既存の商店街への来客にも繋がるものと考えられ、相乗効果が期待されます。

参考 (仮称) 新盛岡バスセンター整備に対する市民意見

(仮称) 新盛岡バスセンター整備に対して、市民の方々や関係団体から貴重な御意見や提言をいただいております。意見等の内容は様々ですが、まちづくりの視点から交通機能及びにぎわい機能の検討を求める意見を多く頂戴しました。

1 市民意見の概要

(1) 意見・提言をいただいた団体等

- ア 地域活性化フォーラム ～盛岡バスセンターに期待する役割～
- イ 盛岡商工会議所まちづくり委員会
- ウ 盛岡バスセンター機能継続を求める会
- エ 盛岡市肴町商店街振興組合青年部（4 S会）
- オ 盛岡バスセンターから考える会ワークショップ
- カ 盛岡市立高等学校
- キ 個人（12名）

(2) 意見・提言の概要

意見・提言の内容を整理すると概要は以下のとおりです。

ア 事業内容検討の前提としての意見

- ・盛岡市内外の多くの人々が利用する新しいバスセンターを考えるうえで、盛岡を魅力あるまちにするためにも、河南地区がどうあるべきかを共有することが大切。
- ・官民の連携による事業として、持続可能な施設運営を主眼に行政の考えを示しながら、様々な提案を受けた検討が求められる。

イ 河南地区の将来像に対する意見

「住む、働く、学ぶ、訪れる多様な人々が充実できるまち」、「災害に強いまち」、「バス等の公共交通を中心に歩行者、自転車にやさしいまち」、「文教地区としての充実」、「河南地区に来る理由づくり」及び「集いの場、観光客の集客」等

ウ (仮称) 新盛岡バスセンターの機能に対する意見

| (交通機能に対して) | (にぎわい機能に対して) |
|-----------------------------|---|
| ○バス交通 | ○まちづくり・都市経営 |
| ・分かりやすく利用しやすく | ・地域経済への好循環、観光、周辺商店街の振興につながる機能 |
| ・暫定的に盛岡駅発着とした高速バスをバスセンターに戻す | ・人が集まり外貨を獲得できる場所 等 |
| ・新たな路線の乗り入れ 等 | ○地域課題 |
| ○アクセス性 | ・少子高齢化・人口減少社会、健康、防災、環境、子育て、雇用、ワークライフバランスなどにつながる公益的な機能 等 |
| ・駐輪場、駐車場の確保 | ○ランドマーク |
| ・複数の交通手段へのアクセス | ・時間をかけて、河南地区を定義する「ランドマーク」として認識されるような施設 等 |
| ・周辺への歩行者動線の確保 等 | |
| ○その他 | |
| ・新交通システムとして、LRT、モノレールの検討 等 | |

2 各団体等の意見概要

(1) 地域活性化フォーラム ～盛岡バスセンターに期待する役割～

ア 開催日 平成29年3月25日（土）

イ 会場 盛岡劇場メインホール

ウ 出席者 コーディネーター：岩手大学理工学部システム創成工学科 南正昭教授

パネリスト：盛岡商工会議所，盛岡バスセンター機能継続を求める会
盛岡市肴町商店街振興組合青年部（4S会），
盛岡市立高等学校，盛岡バスセンターから考える会
岩手県交通，岩手県北自動車，盛岡市

エ 参加者数 134名（一般参加者105名，パネリスト等関係者29名）

オ 意見概要

| | |
|-------------------|--|
| ターミナル機能 (バス機能) | <ul style="list-style-type: none"> ・ターミナル機能，拠点形成機能，ランドマーク機能の3つの役割がある。 ・高速バス，都市間バスをバスセンターに戻すとともに新しい路線も持ってくる。 ・盛岡駅とバスセンターがあることで中心部の路線バスが充実している。バスセンターの便益は河南地区だけでなく，中心市街地全体が受けている。 ・バスセンターは容量不足で周辺にもバス停が分散しわかりづらい。新バスセンターに集約を。 ・高齢者の移動の自由のために路線バスは大事。 ・路線バスが分かりづらいので，方向がわかるカラーリングなどの表示を。 ・県北などからアクセスするバスの利用者が安心できる利便性があった。 ・LRT，懸垂型モノレールなど新しい公共交通を期待する意見あり。 |
| にぎわい機能 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の健康維持 ・ワークライフバランスの実現（子育て，病児保育など） ・若者の働く場所 ・災害時の避難場所 ・外貨を獲得できる場所（外から人が訪れる場所） ・市政の課題解決型のビル ・地元企業中心の商業施設 ・公民連携型の開かれた事業 <p>（個別施設の意見：温水プール付バスセンター，映画館，水族館，運転免許センター）</p> |
| シンボル機能 | <ul style="list-style-type: none"> ・「バスセンターに行く」，と言えば盛岡では河南地区に行くことがイメージでき，方向を示す言葉にもなっている。 ・機能のみならず，シンボル性を持たせることも重要 |
| 河南地区 | <ul style="list-style-type: none"> ・人間中心の多様性あるエリア ・高齢者が増えている，病院が多くある ・（ポートランドを例に）公共交通中心のまち歩行者中心のまち |
| 盛岡市のまち | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツで街を活性化 ・観光客を盛岡に滞在させる ・バスセンターで盛岡市の収入増加につながるしくみ |
| 検討の進め方 | <ul style="list-style-type: none"> ・バスセンターに欲しい施設の意見，木を見て森を見ない検討ではなく，河南地区のまちづくりのコンセプトを共有することが必要。 ・その上で市に欲しいものを求めるだけでなく，自分たちがどうしたいか，それを市にも手伝いを求めながら実現することが大切。 ・市民意見を反映させるために整備計画を立案する事業組織をつくる，再整備の事業主体は別に公募，整備後は運営会社を作り移管（キャッセン大船渡を事例とする意見） |

(2) 盛岡商工会議所まちづくり委員会

バスセンターが果たすべき機能について（抜粋）

（盛岡商工会議所まちづくり委員会の協議内容集約）

□バスセンターが果たすべき機能について

盛岡商工会議所まちづくり委員会では、「盛岡バスセンターの再整備」に関し、「バスセンターが果たすべき機能」について協議を行ってきた。

「バスセンターが果たすべき機能」については、「Ⅰ.ターミナル機能」「Ⅱ.拠点形成機能」「Ⅲ.ランドマーク機能」の3つに定義し、機能ごとに焦点を当て協議を行った。

<総括>

バスセンターを再整備するにあたり、複数交通（バス、LRT、タクシー、自転車、乗用車等）の結節点としての機能をどう充実させていくかが一番重要であると考えます。

さらに、にぎわいづくりを考えれば、商業施設は時代の変遷により難しく、公共的なもの（例えば図書館、行政のサービス機能等）や公益的なもの（郵便局、銀行、託児所等）を機能として備えることがにぎわい創出につながると思われます。

現在、バスセンター跡地周辺には宿泊施設が少ないという状況はあるが、河南地域には歴史的建造物も多く、観光客や利用者を含んだ人の流れやにぎわい作り、さらには複数交通の結節点となることを考えると、高速バスや長距離バスの発着機能に関する検討も必要と思われます。

また、周辺地域との関連性も鑑み、前述の機能が発揮され、かつシンボル性を備え、地域を特徴づける役割を持った建物なり拠点にしていけば、最終的にランドマークとして認識されたいと考えます。

最後に官民連携にて再整備を行なうということだが、持続可能な施設運営を主眼に行政側としての意見をもっと明確で具体的に挙げていただき、安易にひとつの提案に走らず、様々な提案を受けて検討していただけるようお願いしたい。

- (3) 盛岡市肴町商店街振興組合青年部 4S 会
盛岡バスセンターに関する提言書（要約）

■私たちはこうしたい 河南地区の未来

人間中心の多様性のあるエリアの実現

「河南地区に主体性をもってかかわる(住む・働く・学ぶ、など)人々に対して、
人と人との繋がりのなかで多様なライフスタイルを認めあいこれをエリア全体で柔らかく確かにフォローしていくことを通じて、
一人一人が自らの人生・家族・職場・まちに誇りをもち幸せを感じながら充実した日々をおくること、
を実現することを約束します。
一言で言うと、人間中心の多様性のあるエリアの実現、です」

- 河南地区を人で満たしていくために河南地区が今後トライしていく 方向感
- ・安心して集える場所を作る
 - ・バスなど公共交通の利便性向上・二次交通とのリンク
 - ・河南地区に来る理由をもっと作っていく
 - ・既存のイベントや物事を連想させることを意識して仕掛けていく
 - ・駐輪場をつくろう！
 - ・住む人の利便性・快適性を上げていく
- エリアのイメージを実現するための53のアクションプラン※()は意見の数
- ・エリアにさまざまな人を集めてくる(9)
 - ・起業支援(8)
 - ・雇用促進・就業支援(7)
 - ・歩行者に優しい河南地区(7)
 - ・自転車に優しい河南地区(7)
 - ・バスの利便性向上(7)
 - ・その他、移動を補助するプランの実施(3)
 - ・文教地区充実化(4)
 - ・河南地区への移住を促進し世帯を増やす(4)
 - ・健康増進(3)
 - ・河南地区のエリアイメージを向上させる(2)
 - ・世帯内の人数を増やしていく(1)
- 新しいバスセンターに求められる役割※()は意見の数
- ・安全・安心・幸せ(8)
 - ・居場所づくり(6)
 - ・若者の居場所づくり(5)
 - ・健康・ECO・脱クルマ社会(5)
 - ・観光・交通(4)
 - ・住居・職場・起業(3)
 - ・シビックプライド・エンターテイメント(3)
 - ・便利な複合施設(3)
 - ・福祉(2)
 - ・交通弱者対策・ランドマーク機能(1)

(4) 盛岡市立高等学校提案

「盛岡市の課題を高校生の視点で考える事業」として、盛岡バスセンター跡地の今後についての課題研究を行なったものです。(要約)

課題研究にあたり、平成 28 年 11 月に生徒による街頭アンケートを実施。

| | 提案概要 |
|-------|---|
| 共通テーマ | 盛岡市を魅力ある街にする |
| | 公共交通機関を整備する |
| | 若者離れを食い止める |
| A案 | 交通機能を持つ複合施設の提案, 全国チェーン店ではなく, 地元商店街, 地元中心の商業施設により, 盛岡市に還元できる魅力ある施設とする。 |
| | 企業誘致→人口増加→税収増加→行政サービスの住民への提供により, 若者の県外への流出が減少すると予測。 |
| B案 | バスセンターと商業施設を複合させ, 人とお金を呼び込む施設の構築。 |
| | 命名権や広告収入等も加え, 安定した収入を目指し, 施設の維持やサービスの向上に結びつけ, 更なる利用者の増加等を期待。 |
| | 盛岡市の魅力を内外に発信する機能も加え, 盛岡市に訪れる観光客の増加につなげる。 |
| C案 | 岩手国体の経済効果を維持し, 延ばしていくこと, 盛岡駅とバスセンター間の公共交通を渋滞に強くする視点で検討。 |
| | 積雪に強く風景が楽しめる懸垂式モノレールの導入の提案。 |
| | スポーツ, 観光, 交通を融合した複合施設の建設。 |
| D案 | バスターミナル機能を持つ, 盛岡のランドマーク的建物の整備。施設の外観は, 自然(植物)の活用や町屋をイメージする。 |
| | 老若男女を誘客するショッピング・遊び場など, 人が集う複合施設。 |
| | 無料の大型駐車場 |

3 このほかに寄せられた市民意見

商業施設, 観光施設, ホテル, 子供のための施設整備等の意見のほか, 少数ながらバスセンター以外の利用を求める意見も寄せられました。

| | 意見概要 |
|-----------|--|
| バスターミナル機能 | 建物内にバスターミナル, 道路を跨ぎ屋上にバスターミナル, 市内各方面と直結させる, 付加価値を付けた有料待合室 など |
| にぎわい機能 | 商業(各種), 観光案内所, 飲食, 市の出張所, 駐車場, イベント会場, 公民館, 図書館, 高齢者健康増進施設, 子供のための施設, ホテル など |
| 運営主体等 | 建設・所有は公社か3セク, 運営は3セクか民間 など |
| その他 | 交通にこだわらない施設を検討, 路面電車を入れる など |